

札幌市立中央中学校学校便り

吾あり 人あり 学びあり



臨時号

令和7年(2025年)12月5日発行
編集 札幌市立中央中学校教務部
代表 011-241-6266
<http://www.chuo-j.sapporo-c.ed.jp/>

令和7年度も3年生を対象として「全国学力・学習状況調査(教科・質問紙)」を実施しました。国語・数学・理科の結果からは、本校の学力の特徴や今後さらに伸ばしたい力が明らかになりました。また質問紙からは、生徒の生活習慣や学習への姿勢など、学びを支える基盤についての傾向が読み取れます。本号では、それらの結果と今後の方向性を簡潔にまとめ、お知らせいたします。

【中学校国語】

本校の概要

調査結果に基づき更なる 向上が求められる点

改善の方向性

中学校 国語

【区分及び領域】

□言葉の特徴や使い方 に関する事項

全国平均を上回っている

□「話すこと・聞くこと」

全国平均を上回っている

□「書くこと」

全国平均を上回っている

□「読むこと」

全国平均を上回っている

【評価の観点】

□知識・技能

全国平均を上回っている

□思考・判断・表現

全国平均を上回っている

語句の意味を文脈で適切に判断する力。

記述問題における、根拠の示し方・本文との結び付け・論理の構成力。

場面構成や表現の効果、筆者の意図を、自分の言葉で説明する力。

助言や意見を書く場面で、資料・情報を基にした根拠のある表現力。

① 文脈を手がかりに語句の意味をつかむ力を育てる

- ・文章の流れや場面を手がかりにして語句の意味を考える練習を増やし、日常でも使える「言葉を正しく読み取る力」を更に伸ばします。

② 筋道を立てて考えをまとめる書き方を身につける

- ・自分の考えを、理由や具体例を添えてわかりやすくまとめる練習を行い、将来のレポート作成にも役立つ表現力を育てます。

③ 文章の工夫や場面の役割を説明する力を高める

- ・物語や文章の「どの部分がどんな働きをしているのか」を振り返り、自分の言葉で説明する練習を通して、より深く読み取る力を育てます。

④ ICTを使って話す・書く力をよりよい形に磨く

- ・作成した文章の要点をまとめたスライド作りや生成AIによる構成等の見直しを活用し、「どうすれば相手に伝わりやすくなるか」を考えながら表現を改善する力を育てます。

【 中学校数学 】

本校の概要

調査結果に基づき更なる
向上が求められる点

改善の方向性

中
学
校

数
学

【区分及び領域】

□数と式

全国平均を上回っている

□図形

全国平均を上回っている

□関数

全国平均を上回っている

□データの活用

全国平均を上回っている

【評価の観点】

□知識・技能

全国平均を上回っている

□思考・判断・表現

全国平均を上回っている

計算・式処理は安定しているが、「なぜその式を使ったか」を言語で説明する力。

図形分野で、性質や定理を使って論理的に理由を説明する力。

関数分野で、変化や規則性を文章で正確に説明する力。

データの活用で、統計量の意味を踏まえた判断や説明を行う際の表現力。

① どのように考えたかを言葉で説明する力を育てる

- ・計算が合っているだけでなく、「どう考えて答えにたどり着いたか」を自分の言葉で説明する練習を重ね、考える力をより深めていきます。

② 図や式を使って理由をわかりやすく伝える力を伸ばす

- ・図形の性質やグラフの動きを整理し、「なぜそうなるのか」を図や式を使って伝える学習を進め、論理的に説明する力を育てます。

③ グラフや資料から判断を導く力を確実に育てる

- ・グラフや表から読み取れることを整理し、それを根拠に自分の意見をまとめる練習を行い、生活の中でも役立つ判断力を高めます。

④ 解き方を比べて“よりよい方法”を選ぶ力を育てる

- ・複数の解き方を比べ、「どの方法がわかりやすいか」「なぜよいのか」を話し合い、よりよい考え方を選ぶ力を育てます。

【 中学校理科 】

本校の概要

調査結果に基づき更なる
向上が求められる点

改善の方向性

中
学
校
理
科

【区分及び領域】

□粒子

全国平均を上回っている

□エネルギー

全国平均を上回っている

□地球

全国平均を上回っている

□生命

全国平均を上回っている

【評価の観点】

□知識・技能

全国平均を上回っている

□思考・判断・表現

全国平均を上回っている

観察・実験で、条件設定や比較対象を明示して考察する力。

スケッチの正確さに加え、スケッチの意味・有用性を言語で表現する力。

現象に対して、科学的な根拠をもとに理由を説明する力。

地球や生命分野で、身近な事象や地域の自然を題材に、見方・考え方を深める思考力。

① 実験で大切な条件を整理し、理由と結びつけて考える力を身に付ける

- ・実験では「どんな条件を変えるか」を整理しながら取り組み、結果の違いを理由と結びつけて説明する力を育てます。

② 観察のスケッチと説明を組み合わせ、理解を深める

- ・観察したことを丁寧にスケッチし、「何が分かったか」を短い文章で伝える活動を重ね、自然の仕組みをより深く理解する力を育てます。

③ 観察結果から原因を考え、自然のしくみにつなげる力を育成する

- ・目の前の現象をよく観察し、「なぜこうなるのか」を順序立てて考える練習を行い、自然のしくみをひもとく力を高めます。

④ 身近な自然を題材に、生活と学びをつなげる授業を実践する

- ・天気や地形など身近な自然を題材にし、生活の中の疑問と理科の学びをつなげることで、主体的に科学へ関心をもつ力を育てます。

生活や学習に関する調査について（生徒質問紙調査の分析とまとめ）

生活習慣・心の健康について

生活習慣に関する項目では肯定的な回答が、「朝食を毎日食べている（88.8%）」「毎日同じ時刻に起きている（90.3%）」など、良好な結果が多く見られました。

一方で、「毎日同じ時刻に寝ている（80.6%）」は昨年度とほぼ同程度でしたが、引き続き生活リズムの安定を働きかけていきます。

心の健康に関しては、「友人関係に満足している（90.3%）」「幸せな気持ちになることがある（91.0%）」など高い傾向が続いています。仲間同士の支え合いが日常的に行われ、精神的に安定した状態で学校生活を送っていることがうかがえます。

自尊感情と人との関わり

「自分にはよいところがある（85.8%）」「人の役に立ちたい（94.8%）」といった自己肯定感や社会性に関する項目は今年度も高い結果でした。

また、「困っている人を助ける（89.6%）」「友達の意見を大切にして協力できる（93.3%）」など、協働の姿勢が育っていることも本校の強みです。

一方、「異なる意見について考えるのが楽しい（84.3%）」は横ばいであり、多様な価値観を受け止めながら学びを深める学習活動の更なる充実が求められます。

学習意欲・主体的な学び

「自分で学び方を工夫している（80.6%）」「自分から課題に取り組む（85.8%）」など、主体的な学びに関する項目は概ね高い水準を維持しています。

しかし、「学んだことを次の学習や生活に生かすことができる（71.6%）」は昨年度より低下し、学びの「つながり」を意識した授業改善の必要性が明らかとなりました。

また、「分からないところを分かるまで教えてくれる（76.1%）」は昨年度より減少しました。生徒に寄り添った個別最適な支援を重視しながら、分かる喜びを実感できる授業づくりを進めます。

ICT 活用の状況

ICT 活用については、「文章作成ができる（95.5%）」「情報収集ができる（95.5%）」など基本的なスキルが高い結果でした。「スライド作成（90.3%）」も高く、授業での ICT 活用は着実に進んでいます。

一方、「普段の学習で ICT を使っている時間がある（6.7%）」は依然として低く、家庭学習での活用が課題です。ICT の利活用を促す具体的な指導や、学校と家庭での学びをつなぐ工夫を行っていきます。

読書習慣・自然体験・地域とのつながり

読書については、「読書が好き（73.9%）」は高い一方、「1日に1時間以上読書をする（9.7%）」は低い結果でした。読みたい本と出会える環境づくりや、読書活動の充実を図ります。

自然体験については「自然の中で遊んだり観察したことがある（73.9%）」が改善を示しました。体

験的な学習活動が生徒の意欲向上につながっていると考えられます。

地域とのつながりに関しては「地域の大人と関わる機会がある（22.4%）」が低く、今後の重点課題です。地域と連携した学習機会の充実が必要です。

理科学習に見る探究的な学びの広がり

理科に関する項目では、「観察や実験をよく行っている（98.5%）」「予想を立てて計画できる（84.4%）」「観察・実験で学びが深まる（83.6%）」など、探究的な学びに対する肯定的回答がとて高いことが特徴です。

問いをもち、解決のための計画を立て、実践し、振り返るという探究の過程が、日常的に定着しつつあることを示しています。こうした理科の学びが、他教科における探究へと広がることを期待しています。

まとめ（本校の強みと課題）

【 強 み 】

- 生活習慣が概ね良好である
- 友人関係が安定し、安心して学校生活を送れている
- 自己肯定感が高く、人間関係づくりの力が育っている
- ICT の基礎能力が高く、授業での活用が進んでいる
- 理科における探究的な学びが充実している

【 課 題 】

- 学んだことを次の学習や生活に結びつける力の育成
- 分かる喜びを実感できる学習指導・支援の充実
- 家庭学習における ICT の活用
- 地域と連携した学習機会の充実

課題を克服するための今後の取組の方向性

① 学習のつながりを意識した授業づくり

単元（題材）全体の見通しをもてる導入、振り返り（リフレクション）を重視し、学んだことを次に生かす力を育てます。

② 個別最適・協働的な学びの推進

生成 AI や ICT を適切に活用し、それぞれの生徒に合った支援と、仲間と学び合う協働の場を両立させます。

③ 家庭学習での ICT 活用支援

家庭学習における ICT の具体的な活用方法を示し、学校と家庭の学びをつなげます。

④ 地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールの理念を生かし、地域の人と積極的に関わる学習活動を増やします。

⑤ 自己肯定感を高める関わりの充実

日々の授業・特別活動の中で、生徒が「認められている」と実感できる場面を更に創ります。

⑥ 三間（仲間・時間・空間）を意識した運動機会の確保

健康教育や体力づくりを推進し、心身の安定を図ります。また、コミュニティ・スクールの理念も生かして、生徒が自ら運動に取り組むことができる環境づくりを進めます。

⑦ 多様な教育的ニーズへの対応（多様性の包摂）

生徒一人一人の学習状況に応じた個別支援を強化し、どの子にも「学ぶ力」が育成されるような学校教育の場を目指します。

おわりに

本校の生徒は、仲間を大切にしながら日々の学習に意欲的に取り組む姿が多く見られます。今回の調査結果からは、基本的な生活習慣や人間関係、ICTの活用、探究的な学びなど、これまで本校が大切に積み重ねてきた教育活動の成果が随所に表れました。

一方で、学んだことを次の学習につなげる力や、家庭学習でのICT利活用、地域とのつながりなど、今後更に充実させるべき課題も明らかになりました。

これらの結果を踏まえ、私たちは、生徒一人ひとりが安心して学び、更に力を伸ばしていける環境づくりを引き続き進めてまいります。授業改善や個別支援の充実など、学校全体で取組を深め、生徒の確かな成長につなげていきたいと考えております。

また、日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただいている保護者の皆さまに、心より感謝申し上げます。家庭での見守りや励ましが、生徒の学びや生活を大きく支えていることを強く感じております。これからも、保護者・地域の皆さまと連携しながら、より良い学校づくりを進めてまいりますので、引き続き温かい御支援を賜りますようお願い申し上げます。